

線径0.1ミリから100ミリの超大型まで、年間1万種類以上の高精度なバネを特注で製造する専門メーカーだ。

種子島宇宙センターのロケット発射台の燃料供給バルブに採用されている。人工衛星や発電所、船舶のほか、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)や東京ディズニーシーのアトラクションといった遊具まで、使われる場面は幅広い。

バネが使われる環境は様々だ。海辺近くで塩分が多いのか、湿気が多いのか、高温にさらされるのか。用途に応じて使う素材や加工する温度を変え、最適なバネを生み出す。中でも、中東の石油パイプラインのバルブのバネは300度もの高温に耐えなければならぬ。世界で

挑む企業 宏栄スプリング工業 大阪市



様々な大きさのバネを製造する入船学社長（大阪市淀川区）＝守屋由子撮影

特殊なバネ手仕上げで

もこうした耐熱性の高い素材で高精度のバネを製造できる企業は限られており、シェア（占有率）は3割にのぼるといふ。技術力を支えるのは、1957年の創業以来、一貫してオー

ダーメイドにこだわり、手仕上げで培ってきた経験だ。この道40年の職人を抱える一方、最新設備の導入も怠らない。2代目の入船学社長（65）は「多様な素材を扱ってきた経験はどこにも

負けない。どんな要望にでも応えられる」と話す。

特殊なバネを求め日本全国のメーカーから断られた揚げ句、頼ってくる企業もあるという。こうした技術力などが評価さ

れ、2010年度の近畿経済産業局の「KANSAIモノ作り元気企業100社」に選ばれた。80年代、債務超過に陥ったが、入船社長が営業の前線に立ち、取引先を10倍の500社に増やすなどして立て直した。それだけに「永続する企業でありたい」との思いは強い。

今後は環境や医療、航空関連産業を成長分野とにらみ、研究開発に取り組む。入船社長は「新素材のバネを創り出して世界に売り込み、大きく飛躍したい」と意気込む。（山本照明）

資本金	1000万円	従業員	36人
売上高	6億円	創業	1957年